

## 世界のブルーベリー生産量は増加するも輸出量は12%減少

[FreshPlaza](#) 2024年12月6日

2023年の世界のブルーベリー産業の栽培面積は26万7千ヘクタールに拡大し、前年の24万9千ヘクタールから7.23%の増加となった。この成長傾向は過去数年間一貫しており、国際ブルーベリー機関(IBO)のデータに基づくFluctuante(情報サイト)のレポートによると、2021年には23万7千ヘクタール、2020年には21万9千ヘクタール、2019年には20万1千ヘクタールの栽培面積が記録されている。中南米諸国がブルーベリー栽培の主要地域として浮上り、2023年には世界の総栽培面積の42.32%に当たる11万3千ヘクタールを占め、次いでアジア・太平洋地域、ヨーロッパ、中東、アフリカとなっている。

2023年はまた、世界中で合計177万9,545トンという大きな生産量を記録した。中国、米国、ペルーが上位3カ国で、上位10カ国が世界のブルーベリー生産量の88%を占めた。中国だけで総生産量の32%を占め、次いで米国が16%、ペルーが13%であった。(下線部は[出典](#)に基づき訳者が補足)

しかし、世界のブルーベリー輸出は、主要輸出国に影響を与えた気候変動の問題等により、2023年には前年の85万トンから12%減の74万8千トンへと低下した。この減少にもかかわらず、ペルーは世界の総輸出量の28%を占めて世界最大のブルーベリー輸出国としての地位を維持し、チリ、カナダ、スペインがそれに続いた。

輸入では、2023年の総輸入量は82万2,917トンに達した。米国とオランダが合わせて総輸入量の48%を占め、最大の輸入国であった。米国への主な供給国はペルー、カナダ、メキシコ、チリ等で、欧州連合(EU)への主な供給国はペルー、スペイン、モロッコ、オランダであった。

出典: [Blueberries Consulting](#)

## フィリピン パイナップル輸出が急増

[FreshPlaza](#) 2024年12月9日

### フィリピンのパイナップル輸出は中国をトップ市場として急増

フィリピンではパイナップル産業が好転しており、特に最大の市場である中国への輸出が好調である。フィリピンは2023年に20万トンのパイナップルを中国に輸出し、中国のパイナップル輸入市場で支配的な地位を確保した。この拡大は、業界の輸出能力を強化することを目的とした政府の強力な政策によるものである。

フィリピンのパイナップル輸出額は、2023年に2億5,500万米ドルに達した。2024年上半期の輸出額はすでに1億9,300万米ドル近くに達しており、健康的な食品に対する世界的な需要が高まる中、継続的な増加傾向を示している。中国が最大の輸出先で総輸出額の40%以上を占めており、日本、韓国、アラブ首長国連邦、スーダン、ニュージーランドも主要な市場である。フィリピン産パイナップルの主な輸入業者は、伊藤忠商事、ドール(上海)果実野菜貿易、ライオンキングサプライチェーンマネジメント社等である。

ほとんどの輸出は産地の生産者によって行われており、フィルパック社、ドールフィリピン社、マウントキタンガラド農業開発会社が主要な輸出業者である。フィリピンは、独特の地理的優位性と生産コストの低さの恩恵を受けており、これらがパイナップル輸出の継続的な成長と成功を支えることが期待されている。

出典: [Tradecouncil](#)